

‘08-11-7

平成 20 年 11 月度第 1 回街づくり委員会議事録

日時：‘08-11-6（木）19：30～22：00

場所：膳所駅前商店街振興組合事務所

出席者：雨宮、奥村、森、西本、杉本、上原、橋本、中井、竹吉、戸所、乾
（欠席）寺井、原田、志賀、川上

議事内容：

1. ワーキング G への参加報告

膳所駅周辺整備基本構想策定調査委員会（以下調査委員会）の 3 つのワーキング G（バリアーフリー、公共交通、土地利用）の会合が 10 月 24 日に市役所で開催され、当委員会から 3 名が参加した。結果報告は以下の通り。

① バリアーフリー G（出席者：雨宮会長、10：00～12：00）

調査委員会委員 6 名、大津市 3 名が出席し、コンサルタントの司会により会議は進められた。最初に平野学区、膳所学区を対象に実施したアンケート調査の結果報告があり、次いで資料を基に膳所駅周辺におけるバリアーフリーに係る課題の紹介がなされ討議に入った。司会者より、要望について提案要請があったが、短時間のため十分な討議はするに至らなかった。

② 公共交通 G（出席者：橋本委員、13：00～15：00）

調査委員会委員 3 名、代理者等 6 名、大津市 2 名が出席し、コンサルタントの司会により会議が進められた。資料を基に膳所駅周辺の公共交通の現状と課題の説明があり討議に入ったが、橋本委員、タクシー協会専務理事以外の発言は殆どなく認識レベル、意欲に差が見られた。橋本委員は平野学区でのコミュニティバス導入検討状況や、駅北口の整備の必要性を発言し、行政のストーリー通りに議論が進むことに歯止めを掛けていただいた。また、議事録の配布も要請した。

③ 土地利用 G（出席者：奥村委員、15：30～17：00）

他 G と同様、資料を基に駅施設、駅南北側の現状と課題の説明があり、議論に入った。しかし、本 G のキーマンとなる JR 貨物からの出席がなく、生産的な議論は進まなかった。また、駅南地区の利用計画、橋上駅舎の活用方法などの議論に終始し、肝心の駅北側についての議論の深まりはなかった。

上記報告を受けた議論で、議事録の配布、出席委員の増員などを行政に要請すること、わが街つくる会でも 3 つのテーマへの取り組み姿勢を意思統一しておく必要があるなどの意見が出された。

2. コミュニティバスの 4 日間テスト走行を終えて

① 運行面の問題点

バス停に関するもの（表示、間隔、不要等）、乗客の積み残し対応、障害者対応、運行に関するものなどが顕在化した。実走行時までには対策が必要。

② 実走行に向けての課題

テスト走行利用者アンケートの結果をみても、全員がコミュニティバスの早期実現を要望している。しかし事業化を計っていくためには数々の難問をクリアして行かねばならない。その第一に自主運営を基本とした運営基盤の検討である。即ち収支バランスが取れるかどうかの検討である。そのためにはあらゆる角度からのシミュレーションを必要とする。例えば、運営経費の算出にあたってはバスの調達方法の違い（バス会社への業務委託か自己保有か）、走行台数、走行便数、走行時間帯、バス停の維持管理費、業務費等、また収入の算出に当たっては、利用者予測、運賃設定（初乗り他）、企業や住民からの寄付金、広告宣伝費などをファクターとし、如何なる条件で収支バランスが取れるかの検証である。そして、事業の継続のために欠かすことの出来ない住民の参加と理解協力を得るため、運営の基本骨格が出来ると同時に、住民との対話を重ねていかねばならない。橋本会長代理が報道陣へのインタビューで表明している 2 年後の導入を目指すためにも、速やかな行動が必要である。

3. その他連絡事項など

- ① プロジェクト予算の変更届けの申請を行い受理された。
- ② 大津市職員との交流会を以下の通り実施する。
日時：11月28日（金）18：00～19：00 市民センター会議室。会議終了後「喋りや」で懇親会。大津市からは前田室長他10名程度が出席予定。
- ③ 大津市都市計画課より新パワーアップ・夢実現事業の実績報告書の作成案内があり、事務局で準備を進めて行くことにした。
- ④ テスト走行での利用者アンケート結果を自治連経由で各自治会に報告する。
- ⑤ テスト走行利用者との交流会実施を企画してみる。
- ⑥ コミュニティバスに関連して有識者による講演会などを計画してみる。
- ⑦ 街づくり委員会はしばらく月2回のペースで開催して行く。
- ⑧ 次回委員会開催日
日時：11月27日（木）19：30～。

以上